

未来塾シンポジウム H29.6.18(日)
 ～「誰もが元気で楽しく暮らしやすい村」を目指して～

佐藤	<p>始めにこのパネルディスカッションの進め方を説明させていただきます。</p> <p>先ほど、未来塾の9部会の活動報告がありましたが、その中から部会長の3名の方にパネラーとして参加して頂きました。</p> <p>そこで進め方としまして、まずこの3名の部会長さんに私の方から質問を致しまして、先程の活動報告では聞けなかった苦労話や今後のことなどをお聞きしまして、それをつなぐような形で、その後、宮口先生と内山村長にご意見やアドバイスを頂くということにしたいと思います。そして少しこの5人のパネラーで話ができたらと思っています。また、最後には、今日この会場に来て頂いている方々から、時間の関係でお一人か二人くらいかと思いますが、ご質問やご意見を頂きましてまとめにしていきたいと考えております。どうぞ、ご協力のほど、よろしく願いいたします。</p> <p>まず、先程の宮口先生のご講演の中で、私が一緒に未来塾の村づくりのお手伝いをさせて頂いている一人として印象に残りましたことは、「未来をつくるということは、わからないことに挑戦すること」なんだということ、そしてもう一つは、未来をつくる時の我々の立場というのは、「都会に無い田舎の価値感、つまり山江村の価値を大切にしながら未来をどうつくっていくか」が大事なんだと話して頂き、非常に共感しました心強く思ったところです。この未来塾は、振り返りますと昨年4月にシンポジウムをしましてそこからワークショップをしまして9月にこの9つの村づくり部会が発足しました。ですから実質的には昨年の9月から部会が活動に入って現在に至っているということになります。</p> <p>それぞれの部会で活動内容もまた進み具合も違っております。</p> <p>そのような中、本日は食の提供部会から山北さん、観光交流部会から田村さん、福祉部会から川内さんの3名に登壇をお願いしたという次第です。</p> <p>まずは、4月23日に“トキの朝市”を開催されました食の提供部会の山北さんに質問をさせていただきます。</p> <p>一つは“トキの朝市”の2回目はいつあるのかというのを何人かの方から聞かれます。2回目の予定はありますか？また、昨年から食の提供部会の活動を見てみますと、女性だけで集まって会議をされてこられて、最初は色々ありましたが、決まったらサーッと行動に移されてノリの良さみたいなものがあってとてもよかったです。また、山北さん自身が活動報告で言われましたが「ボランティアじゃ駄目だ、ちょっとでも良いから稼ごうよ」という姿勢が、皆を引っ張ってくることができた要因の一つでもあったんじゃないかと思っています。山北さんには、もう一度、なぜ稼ぐ村づくりが大事なのかという点も話して頂きたいと思っています。</p>
山北	<p>活動報告でも話しましたが、やはり皆が何かをしようという時には、利益がくっついてきた方が人は動いてくるスピードが早いと思うので、ボランティアだけじゃなくて村の協力を得ながらみんな一人ひとりが稼げるような、そういう形にしてみたかったので朝市をしました。</p>
佐藤	<p>朝市は私も見に来ましたが、100人とは言わない結構多くの方が来られました。今振り返って次につなげるとしたらどんなことを考えておられますか。</p>
山北	<p>野菜が全体的に足りなかったなと思う。また、野菜以外にも2回目をするときには、皆さんがそれぞれ出したいものをもっと朝市に出店したいという方をお声掛けして増やしていきたいです。</p>
宮口	<p>朝市は、手数料という形でお金が入ったのですか？</p>
山北	<p>出店料は1店舗につき500円頂きました。出店も1人で出店するだけでなく2～3人で組んで出店することもできることにしました。後は、各自で出店された方が野菜を売ったり卵かけごはんを売ったり、自分の家から洋服やリサイクル品を売ったりしてその利益を皆さんそれぞれが得るようにしました。</p>

佐藤	出店は何店舗あったのですか。
山北	13 店舗ありましたので出店料だけでも部会に 6,500 円の儲けがありました。
佐藤	<p>次は観光交流部会の田村さんにお聞きます。</p> <p>観光交流部会は年配者が多いこともあって実はあまり集まる回数も少なかったと思います。しかし、田村さんご自身が従来から願掛け巡りやフットパスの案内などもされており、村の歴史や文化財にもお詳しくて、それで部会の仲間も一緒に引っ張られてきた感があります。</p> <p>田村さんの活動報告では、まず観光ガイドを育成したいと言われました。また、ボンネットバスを活用していきたいともいわれましたが、それらは具体的にはどんな風に展開していこうとお考えですか。</p>
田村	他の町村には観光ガイドがいたりしますが、山江村には観光協会がないこともあって、どのように観光ガイドを育てていくかは今からやらねばならないことと思っています。この観光交流部会が中心になって皆さんに呼び掛けて、できたら部会が高齢者が多いので若い方にも呼び掛けてまた女性の方も参加して頂ければ少し変わっていくのではないかと思います。
佐藤	観光ガイドの育成の方から話しますと、先程の食の提供部会の山北さんの話からは、できれば少し収入が得られる方がいいんじゃないかということからしますと、ヒントになることもありますでしょうか。
田村	やはりパンフレットを作った上で、ガイドの観光ルートも 1 時間なり 2 時間なりのコースが必要んじゃないでしょうか。また、それにかかる経費を積算してみて、例えば運転手を雇ったりガイドに参加してもらったり、あるいは PR や情報発信などにも経費がいりますので、それらを大方つかんで、その中から 1 人当たりの経費を出しておく。さらにバスに例えば 25 人乗った場合、いくらぐらいならまかなえるかを検討していくようなことになると思う。
佐藤	田村さんの報告では、2 回目の朝市と協同でやろうと言われていました。まず、人が来ないと観光は成り立ちませんので、朝市に来られるお客さんを中心にしてボンネットバスを回すという意味ですねそしてボンネットバスを利用したお客さんに、経費をいくらか払ってもらうような仕組みをとるとのことですね。
田村	そうです。
佐藤	観光コースですが、例えば 1 時間のコースの場合ボンネットバスを使ってどんなコースが考えられるんでしょうか。
田村	<p>ボンネットバスは、バスの運賃として料金をとるということではできないものですから、やはりイベント的なものに使うことによって、その燃料代とかの必要な経費を支払うような方法をとっていったらと思っています。</p> <p>観光コースについては、今度は朝市なので朝の時間帯ですので、あまり長い時間のコースではなくて、近くの高寺院とか大王神社が近くにありますが、そういうのをベースに設定していったらと思います。</p>
佐藤	<p>4 月 23 日の朝市は、8:00~9:00 ぐらいから始まってお昼には終わるという形でしたので、その時間帯の中でお客さんに乗って頂く。そしてボンネットバス自体では運賃としてはとれないので、先程言われた資料代、パンフレット代などでまかなわれたらということですね。</p> <p>食の提供部会と協同でやろうというお考えですが、山北さん、そのことは部会としても可能でしょうか。</p>
山北	はい、大丈夫です。因みにまだ予定ではあるんですが、第 2 回の朝市を 10 月 29 日（日）に開催したいと思っています。じゃんじゃん皆さんが出店して頂けるように、皆さんにも協力して頂いて、皆で盛り上がっていかうと思いますので、宜しくお願いします。
佐藤	10 月 29 日に予定してこれから準備に入って宣伝も多いにやっっていこうということですね。こないだの朝市は 1 回目でしたので、村内の方が多く来られましたが、折角宣伝するな

	<p>ら、隣の人吉市とか他の地域にも呼び掛けることになりますね。 逆に観光交流部会は、10月29日を目標に今から資料づくりだとかガイドの準備を自分達でもやるということになりますね。</p>
田村	はい、そういうことになりますね(笑)
佐藤	<p>次は、福祉部会の川内さんをお願いします。福祉部会は月に1度どころかかなりの回数で会議をやっておられます。私自身の事で恐縮ですが、去年はほとんどが夜の会議ですが、熊本から山江村に70回以上来ています。1年が52週ですから一週間に2回以上というのも何回かあったわけです。その中でも福祉部会は私も難しいテーマだなと思っていました。福祉部会の場合、一つは幅が広くて子供からお年寄りまで全部を対象として考えるということと、それからもう一つは目に見える形が無いということ。例えば、食の提供の朝市といったら皆イメージがつく。観光交流でボンネットバスをどう利用するかなどというのは具体的に想像できて話がしやすい。しかし子供福祉とか高齢者福祉になりますと、考えていくことが哲学的なことみたいなものも入ってきたりして、話の中で何回も行ったり来たりのことがあったりしました。</p> <p>川内さんの先ほどの報告では、さらりと言われましたが、実はまとめていくのに相当の苦勞をしておられるはずですよ。そこで、川内さんにはもう一度、なぜ子ども食堂が必要と思われたのか、またなぜ高齢者の働く場が必要なのかを話して頂きますか。</p>
川内	<p>まず、高齢者の働く場の提供というのは一番大切と思うんですね。というのは定年を退職された方などが山江村内で働く場があれば、わざわざ人吉とか近隣の市町村に出て行かなくても、山江村で近くで働けるというそういう場があることによって生きがいを感じることができるのではないかと。すごく大きな目標なんですけど、実は以前、全部の部会長と書記の合同の交流会があって、その時内山村長と話しをさせて頂く中で「高齢者の寿命を延ばすのではなくて、健康寿命を伸ばしたい」と村長が熱く語っておられました。健康寿命というのは元気でいられる寿命ですね。今、日本の平均寿命が女性が80代後半、男性が80代前半と言われていますが、それマイナス10歳が大体健康寿命だと言われていています。その健康寿命を少しでも伸ばすためには、やはり一人ひとりの方が生きがいを持って生活できる場がないとひきこもってしまったりだとか、山江に関しては孤独死というのはあまり聞かないですが、やはり他者との交流や生きがいを持つことが健康寿命を延ばすことになるかと私も考えています。</p> <p>そういう働く場、なおかつ先ほどから話の出ている自分で収入を得る場、ただボランティアだけではなくてやはり自分で収入を得てそれを目標としていくことがいいんじゃないかと思っています。</p> <p>以前、部会の話し合いの中で、佐藤さんからも事例の話があって、「ある市町村で高齢者の総菜や漬物を作ったりするグループができた。その方たちの目標は年に一回でいいから仲の良い人たちで旅行に行きたい。そのために何をするか」から始まったそうです。そこで総菜なり漬物なりを作った収益金をみんなで貯めてみんなで旅行に行く。さらにそのワンランク上の旅行に行くとか。旅行の回数を増やすとか、そういう生きがいが見つけられたと。そういう風に持っていければなと思っています。</p> <p>もう一点の子ども食堂は、私個人の考えではなくて妻からの提言がありまして、山江村でも核家族化が進む中で、両親共働きで子供一人でご飯を食べている。そういう家を一人でもなくしたいという話が妻からありまして、自分も確かにそうだなと思いました。我が家の場合は、祖父、祖母、私の両親と暮らしている中で、そういう孤食というのはないんですけども、やはり山江もそういう状況になってきているんじゃないかと思っています。</p> <p>これは難しい問題も多くあると思いますが、夢としては、折角「時代の駅」というのがありますので、ここを活用する中で、地元の農家さんから有償で米や野菜を提供して頂いて、食の部会とも連携していくと思いますが、そこで500円くらいの食材で食が提供できるのであれば、一人親だとかの子であれば、100円とか無償とかそこは行政とのタイアップで多少なりの助成を頂きながらという格好になるのかなとも思います。ま</p>

	<p>たその子ども食堂で働く人も雇用ができてくればなあと大きなビジョンを描いています。とにかく、根本は子どもたちが一人でご飯を食べるというのをなくしたい。カップラーメンやお菓子だけで済ませるというのをなくしたいという思いから子ども食堂というのを目標として上げさせてもらっています。</p>
佐藤	<p>ありがとうございました。福祉という行政と非常に密接に関係してくるところも多いという印象が強く残りました。</p> <p>さて、宮内先生、ここまで3人の部会長さんからの話がありましたが、これを受けて、1つは「山江村の未来塾のこの村づくりの活動をどう評価していらっしゃるか」ということと、中でも「この3つの部会の活動に対して何かアドバイス等」が頂けたらと思います。</p>
宮内	<p>まず、わけのわからないことを始めたという(未来をつくるということはわけのわからないことに挑戦するという意)ことに敬意を表します。先ほど言ったように、経済活動をどうつくるかということとはそんなに難しくない。むしろ地域社会のあり方をどう持っていくかということがやはり難しい、見えない話なんですね。そのときに集落単位でどうするのかあるいはもう一つ上の範囲でどうするのかという、山江村の仕組みをどうするのかといったことを、これだけの部会で去年の秋から半年余り、集まってとにかく議論をされた。そこからは新しい取り組みというのもすでに生まれたということで、やはりこれはすばらしい取り組みだと思います。そういうことに、基本的に敬意を表したいと思います。</p> <p>例えば、食の部会の朝市は、出店料500円で6,500円を分けると一人1,000円ちょっとだけど、それでも価値のある稼ぎだということになるが、もう少しお店が増えるといいですね。</p> <p>そこでけっこう売れた人、一番売れた人でどのくらい売ったんでしょうか。</p>
山北	<p>卵かけごはんが一番出まして、1食350円で70人くらい売れています。</p>
宮内	<p>ほう、じゃ何万円になるね。そうすると、1割ぐらい手数料をもらう方が売り上げが増えるということになる。普通、道の駅なんかでは、野菜が名前付きで出しているところなどは、1割から2割。2割のところもありますけど、そのようなことでやっていくというのも、その内考えていけばいいかなと思います。</p> <p>それから観光部会が朝市と提携して一種のツアーをやりたいというのは、大変いい発想だと思います。その時にただ自分達が大事にしてきていてすばらしいと思うものと、他人を連れて行って喜んでくれるかということの見極めは、佐藤さんなんかにも相談した方がいい。そういうことのズレが結構あってですね、他人がみると別に面白いとも何ともない、ただそこにいい解説というかストーリーをうまくつけば喜んでもらえる。そういう工夫が大事でしょうね。</p> <p>ボンネットバスという割に珍しいものもあるわけですから。</p> <p>そういう提携というか、9つの部会が全く別々にやっているんじゃなくて相互乗り入れで何か縁がありそうなところで一緒になってやるというようなことに展開していけばすばらしいなというふうに思いました。</p> <p>それから、福祉ですが、高齢者の働く場という言い方をされましたが、生きがいになるということがあれば、必ずしもそれが働くということでもなくてもいいわけですが、定年になってすぐ地元で頑張らなくちゃならないかというところは、あまり固く考える必要はないかと思えますね。人の事情によって色々でしょうから。</p> <p>例えば、漬物ということにしても、ある範囲の集落をまとめて農産加工所みたいなものをつくるというやり方というのはあるわけです。これも最近では、集落ネットワーク圏を確立するのに農産加工所を入れるというと、そういうソフト事業の中のハードということで交付金がもらえる可能性もあります。というように、あんまり個人々にアプローチするよりはグループをつくるような形の方が展開していくんじゃないか。一人でやるとなると尻込みしますからね。そういう印象を受けました。集落を超えて何かグループをつくるような話がそういうところから始められるかもしれない。</p> <p>子ども食堂については、理想的にそういうのがあればいいんだけど「時代の駅</p>

	<p>までどうやって運ぶかとか難しそうですね。たまに日を決めて月に何回とかやるのはできるかもしれない。実際、そういうことをやっている町はありますが、その辺の工夫が必要だなと思います。</p> <p>いずれにしても、こうやって雲をつかむようなところで話が始まるんだけど、そうやって交通整理をする中で未来がみえてくるということだと思います。</p> <p>やりとりをしているうちに、あるいは佐藤さんがかなりつきあっておられて、そこでそれなりのアドバイスをされているんだと思うんだけど、とにかく工場を作って稼ぐ場所をつくらうという話の方がどっちかというと簡単で、こういういい社会をつくらうという話はやはり雲をつかむようなことなんです。しかしそういう意識で皆さんの中から“じゃ俺も部会に入れてくれよ”というような形で参加が増えていくと、そのうち村も予算がつけやすくなって、それぞれの部会の専門にアドバイザーに来てもらって話を整理してもらおうといったようにそんなふうに展開していくといいなと受けとめました。</p>
佐藤	<p>ありがとうございました。私は熊本市内にいますが、74万都市の中で小学校が90くらいありまして、その小学校区ごとに何かやろうとしても、この山江村の未来塾のような形で話し合いをして村づくりをするというようなことはまずできません。だから自分達でいい社会をつくらうと思って、やろうとすることをやろうと言って実現できる社会がここにあることですし、それはすばらしいと私は思います。それこそが宮口先生が講演で話されました「都市にない田舎の価値」なんだろうと思っています。</p> <p>今、一通り話がまわったところで今度は内山村長にお聞きしたいと思います。村長自身が未来塾をつくらうと発想されて、去年立ち上がった訳ですが、今年で2年目に入りました。これまでの未来塾の村長自身の評価と、今後どんなふうにあった方がいいかなど村長自身の思いも含めてお願いできますでしょうか。</p>
内山村長	<p>未来塾は「未来塾を立ち上げたい」と皆さんにお約束して選挙に出た経緯があります。約束させて頂いたというのは、実は山江村というところは、地域づくりの団体が多いところだったと感じています。</p> <p>例えば「ボンネットバスを走らせよう会」は、役場の予算は全く使わないで住民自らが自腹を切りながらトンテンカンテンやりながらバスを復活させた。そのことが先程の観光交流部会のボンネットバスを活用しようかという話に繋がっています。またケーブルTVのマロンチャンネルがありますがこれは村民の方がマロンTVというのを立ち上げながら自分達で企画して映して編集して役場が作っていた動画専用のホームページでずっと発信して続けて来られた。そういう活動の延長線上に今のケーブルTV、マロンチャンネルがあろうかと思います。その他、NPOのもとであった「風の会」ボランティアグループ、それから「万江川原流水リレー」というのがありました。万江川の水を八代海に動力を使わずに、要するに走ってか自転車かで八代海に届けるんだ、そして水の大切さを川下と上流でともに考えていこうということをやっておられましたし、それが今の「万江川塾」になっています。「ロマン探検隊」もはじめは野外活動研究会として立ち上げられたのが現在に至っています。</p> <p>最近では「文珠会」として地域の人が「三人寄れば文珠の知恵」として活動もされているわけです。</p> <p>そういうわけで、もう一度そういうように村民の皆さん方が、自分達のやりたいことを思いっきり自由に実践をしながらこの地域で楽しみ、活動してもらって稼いでもらいたい。これが実現していけばいいなということを考えて未来塾をつくりたいと思ったわけです。</p> <p>役場としては本当は「金を出すけど口は出さん」というのが本当はいいのかなとまで思っているわけです。</p> <p>これまでの話を聞いて私も少し感想を述べさせてもらいますと、色んな形でリンクというか連携がされてきているなと思います。観光ガイドを作るならば山江村検定みたいなものを作って、山江村検定ガイド何級みたいにするね。ツアーを企画するというのであれば、実は地域づくり研究所の高橋地域おこし協力隊は、総合旅行業の資格を持ってい</p>

	<p>ますから、お金を取れるツアー企画なんかもできるんじゃないかと思っています。これもリンクしていろんなプログラムも作れるのではないか。例えば朝市とからめるのであれば泊りがけの来て見て泊まるというフットパスもありますし、観光も農泊もあります。万江川、温泉センターに泊まってもらう、あるいは「時代の駅に泊まってもらう」というのもあるわけです。そういう泊まり掛けのツアープログラムも皆さん方で協力し合えばできるなど考えていました。</p> <p>それから福祉の方ですが、一つは漬物づくりの件、実は「小さな産業づくり」の補助金というのはまだ生きています。5軒以上でいろんなことをやられるというのに対して、村が9割補助の90万までですから、100万円の予算に対して村が90万まで出せるので10万の手出しでいろんな産業づくりに使えます。また、地域をあげてというか万江川の流れてそういうようなことであれば、宮口先生からアドバイスをいただいた制度の事業を導入させて頂ければと思っています。</p> <p>それと、これもまた連携ですが、子ども食堂は万江保育園が一生懸命やろうとしておられます。いわゆる田舎の子ども食堂ですから、貧困の子ども食堂ではなくて、子ども達の一緒になる場をつくりながら地域をつくっていきたいという思いをもっておられるので、万江保育園の先生たちとまた一緒になってやってみるというのもあるかと思っています。</p> <p>いずれにしても、本当に皆さん方の熱心な動きに感謝致しております。先程も地域づくり団体の話をしましたけれども東浦の方では、東浦太鼓踊り、これは一時期なくなりましたが、山江の中学生が太鼓踊りと扇踊りをずっとしていた時代がありました。これがここに来て復活してもう7年目になると思いますが、昼は仕事をしながら夜な夜な臼太鼓の練習を頑張らせてもらって、先月東京の丸岡会と関西の丸岡会で披露されまして賞賛をあびてもらいました。それを地域をあげて応援しようじゃないかということで、臼太鼓踊りに焦点をあてた東浦臼太鼓の夏祭りというのを開催されました。これを含めて、地域にある息吹き墓というこれは百日咳の神さんがまつてあるところですが、そこも整備しようじゃないかという動きもでてきた。そういう一つひとつの動きが山江村を作っていくんだらうと思いますし、皆様方のその動きが本当に大きな実践運動となってくことが力強い山江村というかシンポジウムのタイトル通りに「誰もが元気で楽しく暮らしやすい村」ができていくんだらうと思います。大変夢を広がらせてくれるわけであります。そういう思いで、口は出さんけど金は出すという姿勢で、また皆さん方の活動をしっかり応援させて頂けたらと思っています。</p>
佐藤	<p>ありがとうございました。パネラーの方5人に一通りお話していただきました。ここで、会場の方から何か質問ですとか意見などありますでしょうか。宮口先生はなかなかつかまらない先生ですので、宮口先生への質問とかでも結構です。</p>
会場	<p>久保山と言います。田村さんに山江の語り部みたいなものを何とか引き受けてもらえないだろうかという希望です。というのは、円蔵の石(えんぞうのいし)、これは昔人吉城の東側の玄関口に作った石なんです、その話とか、矢瀬主馬佑(やぜしゅめのすけ)とか平川次郎藤高(ひらかわじろうふじたか)とかの大王神社の経緯なんかをもう少し踏み込んでもらいたいと思っています。それでぜひ、田村さんに語り部の一つのグループの主になってもらいたいというのが私の希望です。</p>
佐藤	<p>田村さん、ここで何もしゃべらないというわけにはいきませんね(笑)田村さんご指名です。</p>
田村	<p>えーっと、私は学芸員でも何でもありませんが、ただ昔祖父達から聞いてきたものをずっとやっているんですけども、やはり観光客がこれからたくさん来られる場合に対応するには、案内人の育成は本当に大事だと思っています。</p> <p>それで若い人たちがもう少しこのグループに入っていていただいて観光の勉強会もやって頂いて、私達でなく本当の学芸員さんたちも入ってもらって案内人の育成をやってもらったらと思います。</p>
佐藤	<p>はい、ありがとうございます。田村さんは、今控え目に言われましたが、観光交流部会では結局最後まで自分でしゃべって元気にやって下さいますので、我々も心強い限りで</p>

	<p>す。</p> <p>観光交流部会でも一番の悩みは若い人をどう引き込むかです。それから村長が先程言われましたが、山村には昔から地域づくり団体が確かに多い。でもその方たちも私を含めて年齢的にずいぶん上がってきてまして、今回もやっぱりその当時やって下さった方が入って下さっているのだから続いているという感じが私はしています。未来塾の大きなテーマの一つとして、やはり若い人をどういう風に入れ込むかということが課題になっています。山江村は3,500人くらいの小さな村ですが、実は今回、この部会とは別に若い人だけで集まる会をつくりました。活動報告の中で地域づくり研究所の川口さんが話してくれましたが、この若い人たちが20人くらい集まってくれました。実はその時のキーマンが何人かいます、彼等に話しますと、今はみんなスマホを持っていますのでライングループをつくっていたりして、集まろうと思えばすぐ集まるんですね。その中のキーマンの一人が今会場に来てくれていて、中竹浩之さんといいます。中竹さんは実はケーブルTVの岩崎清佳さんと一緒に、この冊子(山江村のイラスト入り広報誌で会場配布)を作ってくれた方です。これは、以前交流会の席で中竹さんが東京にいた頃自分が仕事として描いていたイラストをスマホで見せてくれていて、私がこれは何とか活かすことができなかつたかと思っていたのですが、今回村長から「ある日の山江村」をテーマに冊子を作ってくれないかということがありましたので、私が川口さんに相談して彼等をお願いして出来上がったものなんです。やはり、彼が東京で培った自分のやりたかったことをこの村で実現する一つの契機になればと思ってやってみたんです。中竹さんは、観光交流部会にも入ってくれています。先般の会議の中でも彼自身も若い人にもっと入ってもらうにはどうしたらよいかと悩んでいるということでした。ここで、中竹さんにも話してもらいたいと思いますが、若い人が入ってくれるようにするには我々はどうすればよいか、何を变えていけばよいか、中竹さん自身の思いを話してくれますか？</p>
中竹	<p>私が考えていたことを話しますと、若い人たちと話すときやはり一人一人それぞれが自分達が村に住んでいてやりたいこととか将来こうしたいなと思っていて、それを飲みながら話し込んだりすると、いろんな意見が出てきます。それを観光交流部会とか未来塾に方にもってきても、昼間はなかなか仕事で忙しかったり、集まっても会議ではやはり言いづらいという人が多いものですから、未来塾とは別のグループとしてたまに集まってそうやって意見を出して、その意見を自分が持ち帰って今後の未来塾や部会の方にも活かせるように考えています。今後観光交流部会として田村さんを中心にボンネットバスを使った観光ツアーをまず実現させて、その後自分と同世代の若い人達の意見を取り込んで若い人たちの背中を押して参加者を増やしていけたらと思います。</p> <p>自分としてできることは、SNSを利用して自分が聞いた意見なんかを代弁することも可能なんじゃないかと思ったり、あるいは誰かが若い人の代表として自分に代わって言ってくれたら、それはそれで皆さんにアピールできるのではないかと思います。</p> <p>今回、自分が参加してみているような考え方ができると思えたので、自分を含めて若い人たちとどんどん意見を交流する意味で、観光交流部会の交流という形で年配の方たちと若い世代の人たちをうまく交流させることができたらと感じました。</p>
佐藤	<p>ありがとうございます。今、中竹さんが言いましたように、若い人たちと話をするとき、今回これもキーワードになると思いますが、やはり飲み方をするというのがあると思います。</p> <p>なかなか昼間は仕事で難しいですし、夜集まってもらってもそこで何かのテーマみたいに何々を考えるとかなってしまったりとそれだけで尻込みしてしまう。むしろ何かわからんけど飲みながら自由に意見を言ってみようと呼びかけたら20人くらい来てくれたんですね。</p> <p>観光交流部会の方の交流ということで、今後やってみようよと中竹さんに話をしています。これを村内の16行政区として地区ごとにやりますとやはり近すぎて先輩方になかなか言えない。そこで地区を取り払って世代間で交流するという意味で、若い世代と年配の方々の交流の機会を作ろうと思っているわけです。その時、是非皆さんにお声掛けをして、若い人の意見を出してもらおうと、観光も万江川とか自然をいっぱい活かしたアクティ</p>

	ブな観光みたいなことができてるんじゃないかと思っています。さて、他に会場からご意見やご質問はありますでしょうか。
会場	城山と言います。昔、私が30歳前後の頃、人吉市内で飲んだ後、ラーメンを食べに行っただけですが、その時観光客の人だと思うんですが「人吉・球磨に何かいい所がありますか？」と聞かれた時に私が「こぎゃん田舎で良かとかこのあるもんですか」と言ってしまったんです。その時にその人が「あなた、人吉・球磨を全然知らないでしょ」と言われて、私はすごく恥ずかしい思いをしました。そこで、観光交流部会の方が先程観光パンフレットを作ろうとおっしゃいました。やはりそれを確実にやってほしいと思います。これを球磨人吉全体に広めてもらおうと、若い人たちがそれをみて勉強して観光客の人たちにもここがいいですよと言えるようになり、それを山江から発信してもらいたいと思います。私はその時ラーメン屋から出てタクシーに乗るまで「何でそういうことを言ったんだろう」と一生懸命反省しましたので反省を込めてお願いしたいです。
佐藤	具体的ななどでもいい意見を頂きありがとうございました。田村さん、また出番がきました(笑)パンフレットの話が出ましたが、以前田村さんは村の人たちがあまり村内のことを知らないと言っておられましたので、その辺りも是非お話しください。
田村	私は合戦の峰地区に住んでいるんですが、合戦の峰の観音さんが日本遺産構成文化財の一つになって、また三十三観音廻りでたくさんの方が来られるようになりました。皆さんにおもてなしとしてお茶の接待をする時に、毎日行って話をするんですが、なかなか通じらんですね。やはりパンフレットが必要ですね。また、パンフレットもあんまり詳しく年号を入れて説明すると嫌になりますし、できるだけわかりやすい簡単な方がいい。また、観光客の方も専門に歴史に詳しい方は年号なんかもないと安心されませんが、一般の方は、ただそこで聞いていかれるだけですから、そういう簡単なパンフレットを部会の方でもこれから検討してみたいと思います。
佐藤	私も観光交流部会のメンバーと一緒に、焼酎墓というところや先程村長が話された息吹き墓、山田こじょ、山田伝助さんの墓に行きました。山田伝助さんの墓は行って初めて初めて墓が3つあるということも知って驚きました。山田こじょの話も面白かったんですが、焼酎墓は墓の形がユニークなんですけれども、そこでは田村さんが「山江には焼酎バカ(飲んだくれ)がそこかしこにおる」と言われたんですね。(笑) 詳しい話を聞くよりも、そういう話の方が聞く方としては印象に残るんですよ。息吹き墓は祠なんですけど、そこを見に行ったらその後、地域の方がそこにノボリを立ててきれいにされました。 だから見に行くと地元の方もうれしいからきれいにされるという、村がますますきれいになっていくという、いい循環が生まれつつあるんじゃないかなと思います。 是非、そういう機会をみんなが逃さないようにやっていけば、本当に住みやすく楽しく元気な村にできるんじゃないかと思っています。 折角ですから、部会長の川内さん、山北さんにももう一言ぐらい何かご意見を頂きたいと思っています。川内さんいかがですか？
川内	えーと、私も焼酎バカなので・・・(笑) さっき話した中で、宮内先生と村長の方からものすごく心強い言葉を頂きましたので、是非次回の部会にこれを持って行って話し合いの場を設けて新しい方向に向かって、芯をぶらさないようにやっていきたいなと再認識したところです。
佐藤	ありがとうございます。では、山北さんお願いします。
山北	昨日ふと思ったんですが、この未来塾を3年後のオリンピックにからめて山江村をアピールすることとかできませんかね。勢いに乗ってじゃないけど、そういうことができますか。今、村でゆるキャラを募集していますが、それもオリンピックにからめて何かできないかなと。
佐藤	それは内山村長に最後にお話ししていただきましょうか。その前に一通りまわりましたので、宮口先生一言お願いします。

宮口	<p>あの最初に言いましたが、やっぱり居酒屋がないのがいかん(笑)</p> <p>簡単なことで、おばちゃんがここに10人ぐらいいれば、私やろうかしらという人が出るかもしれない。未来塾か地域づくり研究所主催で月に一回飲み会をすとか、どっかを使って。そうするとだんだん面倒になって、じゃお店は誰かやった方がいいんじゃないかっていうことになるかもしれない。やっぱり先ほど若い世代がたまにそうやって飲みながらやっているというのは、ものすごく大事なことです。</p> <p>小国町が一番輝いていた頃は、ほとんど毎晩飲み会でしたね。そこに遠くから来た私達のようなものが加わるわけですよ。そうすると謝礼を一銭も払わなくても話が聞けるわけです(笑)</p> <p>そういう会がある地域の方が栄える。それで面白いからまたのぞきに行こうかという人が出てくる。そういう所へ多少お年をとっていても、たまに若い奴にかかわろうかという人も出てくるかもしれませんね。これは、行政が居酒屋を始めてもいいかもしれません。焼酎バカが多い地域ですから(笑)</p>
佐藤	はい、ありがとうございます。それでは村長お願いします。
内山	<p>オリンピック誘致に合わせて何かという話ですが、今海外から年間2,000万人ぐらいの人が日本に来ていて、外に出ると中国人や韓国人ばかりみたいになっていますが、これはオリンピックの時には4,000万人ぐらい来ると言われていますので、まわってこっちにも来ると思います。そこで今日、宮口先生が講演の時に言われた「技の蓄積は人間論的価値がある」という私はこれだと思うんです。やっぱり外国の人が来て何が面白いかというと、日本人の技の蓄積が面白いんでしょうし、さっき語り部という話がありました。語り部が語る言葉もまた技の蓄積なんだろうと思います。では、技の蓄積は一体どこにあるんだろうかと私なりに考えると、それぞれの家庭の中にあるというような気がします。家庭の中、衣食住の感じ方もずい分と無くなってきたと思いますが、もう一回そういうことを見直す必要があるだろうと思います。そうすると、将来的には農家民泊につながる、それができていくようになるとオリンピックでも人を受け入れられるということになっていくかもしれないと思います。</p> <p>ただ、それまでにはもちろん栗のゆるキャラもやりますし、今度山江栗がパリに行って、マロンはフランス語だそうですから、フランスの人は良く栗を食べるそうなので栗をよく食べる国に行って和栗のやまえ栗を食べてもらってどうなのかというのを見てみたいと思います。</p> <p>うまくいったら、「モモ、クリ植えてハワイに行こう」ではありませんが、「クリ、ユズ売ってパリに行こう」というようなことも言っているのかなとか、ちょっとまだ早いのかなとも思いますが、そういう誇りだとか夢があるのかも合わせてやっていけたらなと思っています。</p> <p>居酒屋の話がありました。こちらから見ている一番ニコニコ聞いておられた東さんあたりが始められそうだなという気もしております。(笑)そういう楽しい場の提供、パブの提供も本気で儲かる仕事としてやっていけることができればまた面白いかなと思います。</p> <p>パン屋をつくるにはUターンの話もありますが、松本さんの娘さんは大阪で代議士秘書をしています。実はベーカリーのパン屋が本職でありますから、早く帰ってきてパンをつくれというような話もしているわけですけど、そういうことがいっぱい起きるような楽しい元気な村になればいいと思っています。</p> <p>それから、もう一つ、意見は出るけど訳のわからんことを一生懸命言っているというのは真にそうです。私も自問自答しながら毎日訳のわからんことを一生懸命頭の中でしゃべっています。ただある日突然、ふっと政策として思いついて担当の職員に言いますと、担当の職員は嫌な顔をしますが。(笑)そういうことの繰り返しだと思います。</p> <p>そういう意味のわからんことをお願いしているつもりはないんですけども、ある日突然パッと何か開けるということにつながっていくことが必ずあると思いますので、どうぞ今後とも宜しくお願い致します。</p>
佐藤	ありがとうございます。ちょうど予定の時間となりましたので、この辺で終わりにしたいと思います。それでは最後に、忙しい中に出席して頂きました福祉部会の川内さん、食の

提供部会の山北さん、観光交流部会の田村さん、そして早稲田大学の宮内先生、内山村長に、もう一度拍手をお願いしまして終わりにしたいと思います。
どうもありがとうございました。(拍手)

(敬称略)